

2024 年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。
清教学園の目指す人間像 ①神を信じ誠実に仕える ②真理を学び賜物を生かす ③隣人と共に平和を築く

2. 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上 ～
1 教育の質的向上 （１）学力伸張を図る （２）社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する （３）高い倫理観と Servant Leadership を育成する * Servant Leadership：「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え
2 生徒における学校生活の充実 （１）特別活動の充実 （２）生徒指導の充実 （３）生徒支援
3 環境整備力の向上 （１）施設の充実 （２）外部環境への対応 （３）情報の共有化と発信力の促進

3. 学校評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

学校評価アンケートの結果と分析〔2025 年 3 月実施分〕	学校評価委員会からの意見
<評価結果の高い項目> ※ 数値は AB の回答率〔%〕 〔*A を最良とする ABCD の 4 段階評価〕	2025（令和 7）年 3 月 29 日に 2024（令和 6）年度の学校関係者評価委員会を開催した。この学校関係者評価委員会は、保護者会関係者、地域居住者、および学園評議員によって構成されている。なお、評議員の選定については、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の三つの枠を設けた上で行われている。
【中学生】 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 98.6 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 97.1 保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされている 97.1 生徒は学園が目指す人間像（真理を学び賜物を生かすなど）を理解している 95.7 生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている 95.7 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている 95.7 生徒は充実した学園生活を送っている 95.7 「社会（地歴・公民）」では学力向上や学習意欲の高まりにつながる授業が行われている 95.7 姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている 95.7	【保護者会関係者からの意見等】 ・これまで課題となることの多かった高校生における学業面での満足度（「学校の勉強で十分な学力がつく」）は、教員に努力いただいているおかげで、C 評価と D 評価の合計が 30%を超えるといった状況を 2024 年度は克服できた。また、進路指導面での満足度（「明確な夢・目標が持てる」）についても A 評価と B 評価の合計が 80%超の水準にまで上がった。たしかに部活動と学業との両立という点では依然として課題もあるというアンケート結果ではあったが、学校として全体で生徒たちの学力向上と進路開拓のために向き合っていてくださっていることが改めて実感された。
【高校生】 熱心に指導してくれる教員が多い 94.7 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 93.1 姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている 91.6 宗教・人権教育が重要視されている 91.6 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 90.8 「理科」では学力向上や学習意欲の高まりにつながる授業が行われている 90.1 生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 90.1	→ 今回の結果でもって良しとはせず、さらなる改善を図り続けたい。生徒たちの成長のために、これからも変わらぬご支援をお願いしたい。
【中学保護者】 P T A 活動が盛んである 97.3 プロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深める 95.3 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 94.6 姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている 94.0 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている 92.6 宗教・人権教育が重要視されている 91.9 トイレ設備が整備されている 91.9	・学校評価アンケートは、毎年行うことで改善のための契機を把握できるようにするものであるが、他方で以前よりもいろいろなアンケートに回答しなければならないようになり、積極的に回答参加してくれるようにすることの難しさも出てきているのではないか。たしかに経年変化を見ていくことは大切だが、しかし 35 問におよぶ設問、また各設問ごとに自由記述欄もあるため、落ち着いて回答を作成するというのはしんどいところである。前年度にも意見の出されたところであるが、設問数を半分ほどに減らし、10 分くらいで回答が終了できるようにしてほしい。回答率を上げるには、経年変化を見るべき項目を絞るなどして、そうした工夫に着手してもらってもよいのではないか。
【高校保護者】 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 97.0 プロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深める 96.6	→ 日々ご多忙の中をご協力いただき、感謝を申し上げる。教育活動や運営の質向上に資するためという最重要事項を保ちながらも、アンケート回答の際に無理を強いない内容に改訂できるよう、専門家への相談を継続させていただきたい。
	【地域居住者からの意見等】 ・「災害対策に関する評価は改善すべきである」と昨年度に伝えた提言項目について、教職員のみならず高校生においても改善実感が増したという回答結果であったのはうれしいことである。防災は地域ぐるみで考えていく課題であり、これからも高い意識を持ち続けてもらいたい。
	→ これまで以上に、生徒たちの安全安心の確保について徹底して臨んでいく。また、地域における協定避難所になっている本校の位置づけを踏まえ、官公庁から出される指針にこれからも適うようにしていきたい。引き続き近隣の方々による温かなお見守りとご協力をお願いしたい。

生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している	96.6	【学識経験者からの意見等】 ・「生徒は充実した学校生活を送っている」は、評価観点「学校生活」の項目に入れるべきであろう。 → アンケートの設問数を減らすようにというご意見もいただいております、アンケート自体の改訂に合わせて調整を図る形にしたい。 ・教科教育に関する設問は、五教科にかぎらず探究や情報についても設けるべきである。現在の指導要領等の内容を踏まえた場合、従来型の主要教科についてのみ問いかけをしても学園の授業力を十分に確認することはできないと思われる。 → 大学入試の多様化を見ればわかるように、生徒たちの学業成果を評価する仕方はこれまでのものだけではない。また学園としても、学外から高い評価をいただいている探究的な学びや ICT 活用を通じた学びについても、生徒における授業での成長実感の状況をいっそう尋ねてみたいところである。こうしたことについてもアンケート自体の改訂の際に工夫をしていきたい。 ・「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」については毎年のように評価が十分に高くはなく、具体的な対策が必要である。 → たしかに生徒・保護者とも A 評価と B 評価の合計が昨年度も今年度も 80%に満たず、評価状況の改善が早急に求められていると認識している。その中でも、大学入試への意識が高い高校生において、昨年度のような C 評価と D 評価の合計が 30%を上回るといった状況が克服されたのは教員における学習指導での工夫が実り始めているものだと捉え、学校全体として引き続き努力を重ねていくことにしたい。生徒たちが自分自身で納得できるような進路開拓につながっていくよう、私学として、学力保証についてはこれからも真摯に向き合い続けていく。
姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている	96.2	
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	96.2	
生徒は充実した学園生活を送っている	95.7	
P T A 活動が盛んである	95.3	
宗教・人権教育が重要視されている	95.3	
【教職員】		
生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している	100.0	
姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている	100.0	
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	100.0	
生徒は充実した学園生活を送っている	100.0	
家庭への連絡は適切に行われている	100.0	
悩みや相談に親身になってくれる教員がいる	100.0	
＜評価結果の低い項目＞ ※ 数値は AB の回答率（％） 【*A を最良とする ABCD の 4 段階評価】		
【中学生】		
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	65.7	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	71.4	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	72.9	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	77.1	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	77.1	
食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい	77.1	
【高校生】		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	57.3	
自習室・ラーニングコモンズは利用しやすい	67.9	
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	68.7	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	72.5	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	77.9	
生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている	78.6	
公平な教員が多い	78.6	
【中学保護者】		
食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい	52.3	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	63.1	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	64.4	
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	71.8	
【高校保護者】		
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	73.5	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	76.1	
【教職員】		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	65.7	
宗教・人権教育が重要視されている	71.4	
自習室・ラーニングコモンズは利用しやすい	77.1	
＜全体総括＞		
今回の学校評価では、中学校・高等学校ともに、グローバル教育や生活指導、学校行事への工夫が生徒たちにおいて高く評価されました。中学生は学園生活への充実感や誇りを持ち、図書館教育にも満足していることから、環境全体を肯定的に捉えてくれています。一方、高校生は教員の熱心な指導や宗教・人権教育に前年度以上に高い評価を与えており、より深い学びや内面的な成長を実感してくれています。保護者および教職員は、中高共通でいじめ対策や ICT 環境、PTA 活動に対して前年度以上に高く評価しており、学園全体で生徒の学びを支援する体制への意識がますます高まっていることの証左と捉えられます。中高全体として、生徒たちの学びの環境をきちんと整えると同時に、中高それぞれの成長段階に応じた教育が効果的に行われ、生徒たちにもこれまで以上に好意的に受けとめてもらえた年度にすることができました。		
他方、中学・高校共通の課題として、進路指導の具体化、部活動と学業の両立が挙げられます。中学生に対しては将来のキャリアや学問分野をイメージできる指導での工夫が必要です。また高校生では自習環境の利用しやすさにも課題がある模様です。高校生については学校への誇りという点でも学校側での工夫が求められます。保護者や教職員も同様の課題を認識しており、特に学力と部活動の両立と自習環境の整備は共通の改善事項です。総じて、キャリア教育プログラムの強化、自習環境の充実、部活動の活動時間見直しが次年度への課題だと言えます。さらに食堂の利便性向上についても改善が急がれる状況です。教職員と保護者の連携を強化し、生徒たちのために学校全体で課題解決に取り組んでまいります。		

【学園卒業生からの意見等】	
・「知り合いや後輩に入学を勧める」の回答結果が高校生においてももう少し良い内容であってもよいように思う。今回結果に入学経緯（専願・併願）は影響しているか。 → 中高とも、生徒たちが学校生活を概ね楽しんでいるという結果にはなっている。また中高とも、本校を志願していただくにあたっては、説明会等の機会に実際に足を運んでいただいた上で本校への志願をするかどうかを決めてほしいとお伝えしている。専願・併願の違いは結果に影響しないだろう。本校での学校生活の充実度が増すよう更なる工夫に努め、本件結果の良好化を図っていきたい。	
・食堂については改善を要するという点で課題が重たい状況であろう。中学保護者による評価が低いことから、共稼ぎの家庭が増え、公立では給食が提供されている社会の風潮も影響していることが分かる。これまでのように弁当持参ということをつつまで続けられるか。デリバリーのランチ提供の便宜を図る、中学生の食堂利用可能日の設定等、状況改善が必要になってきているのでないか。 → 今後の学校運営にとって無視できない課題だと認識している。生徒も保護者も安心できる環境となるよう、さらなる協力先を求めること等も進めたい。	

4．本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	（１）学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進 （２）学力向上をもたらす学習指導の工夫および生徒の自主的な学習姿勢の育成 （３）キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化	ア．礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。 イ．バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。 ウ．グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。 エ．ICT 等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。 オ．個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。 カ．生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。 キ．将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。	学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。 ア．建学の精神に関する理解、及び宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果が、どの評価対象枠においても 80％以上 イ．生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても 80％以上 ウ．姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても 80％以上 エ．学力向上につながる授業が多い（主要 5 教科平均）およびプロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深めるの評価結果がどの生徒においても 80％以上 オ．「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において 80％以上 カ．「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において 80％以上 キ．「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において 80％以上	□教育理念・独自性 「建学の精神」および「愛校心」に関する評価結果は、多くの生徒・保護者においてこれまでと変わらず概ね良好です。キリスト教に基づく「心の教育」については、教員において充実度が多少下がったものの、本校の教育理念を生徒・保護者に理解してもらいいただける状況は変わらず安定しています。ただし、高校生においては、昨年度に続き今年度も改善傾向が見られたものの、「知り合いや後輩に学園への入学を勧める」に関して僅少ながらも及第点には達しませんでした。学園の基本姿勢が入学時の期待度に適ったものであるか、生徒一人ひとりに対する向き合いに努める中でさらなる改善を図ってまいります。 □特別活動 特別活動に関しては概ね評価が高く、生徒たちは主体性を発揮する場として楽しんでくれています。ただ、高校生では、幾分か改善傾向が認められるものの、「部活動は勉強の時間が確保できるように配慮されている」に関して評価が高くない状況は変わっていません。「学業第一」の大原則のもと部活動ガイドラインを遵守した活動となるよう引き続き配慮を重ねます。国際交流・グローバル教育や探究活動に関する課外での取組を含む各種活動は好評であり、そのことは希望者制プログラムやプレゼン機会へのエントリー人数の多さからも分かります。 □学習指導と進路指導 「教科教育」および「学習指導」に関しては、中高ともにアンケート対象となった教科すべてで良好な評価でした。これまでの結果傾向からすると、国語において学力伸長を生徒たち自身が感じていたという結果状況は特筆すべきものです。ただ、高校生においては、改善傾向ながらも、「学校の勉強」のみで「十分な学力がつく」という点で評価が及第点に達しませんでした。大学受験に向けて緊張感を高めて授業に臨む高校生に、そこでの学びにおける充実を存分に実感してもらえるよう、努力を重ねていきます。また進路指導では、「将来、学びたい学問」や「将来、働きたい仕事」などに関する指導について概ね良好な評価となっていますが、中高別により詳しく結果内容を見ていくと、中学生に対するアプローチについては課題があると言えます。中学段階から高い志と人生への情熱を抱いてもらうために、成長段階に即した進路指導の内容を再度精査し、日ごろの指導内容がより意義深くなるように努めていきます。

2 生徒における学校生活の充実	(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化	ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。	ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上	□生活関係・生徒支援 生活関係の事項については、キリスト教主義の学園として、どんな場面においても、一人ひとりの生徒に寄り添う基本姿勢を大切にして指導等に臨んでいます。評価結果について概観するに、2024 年度についても、その基本姿勢を理解いただいていると捉えられます。また、いつも高評価をいただく図書館教育はもとより、生徒たちの個性あふれる学校生活を支える各種の取り組みについても、これまでと変わらず信頼をいただいています。ただ、自習室活用では、高校生において評価が下がりました。どの学年でも自学習の大切さが伝えられ、自学習の習慣づけに関する指導が手厚くされていますが、そのことに伴って通常教室とも異なった環境の自習スペースが高校生たちに望まれてきているといった可能性もあります。生徒たちの一日の過ごし方をさらに有意義なものとし、地道に学びに臨むことのできるような環境づくりについてさらなる検討を進めます。今後も、生徒たちの学校生活の彩りを豊かにする工夫を重ねていきます。
	(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化	イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。	イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においては、80%以上	
	(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進	ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。	ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において 80%以上	
		エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。	エ. 「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果はどの評価対象者枠においても 80%以上	
		オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。	オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上	

3 環境整備力の向上	(1) 施設の充実	ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。	ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上	□教育環境設備・学校運営 かつての学校評価結果を踏まえ、2024年度もトイレ改修工事を進めました。ここ数年の工事によって、校内の複数のエリアで改修されたトイレを使えるようになり、高校生においても「トイレ設備が整備されている」に関して評価が少し高まりました。とはいえ、高校生においては及第点の評価には至っておらず、学習環境の整備については引き続き対応を進めていきます。生徒の生活環境たる施設設備を充実したものとするため、計画的かつ全体的な推進を図ります。これまで要望のあった箇所はもとより、ICT等の教具の質向上や拡充にも努め、新しい時代に求められる教育のありように応えていくことのできる私学らしい環境を提供できるようにします。 また「情報公開」については、これまでの評価結果を踏まえ、Instagramの活用状況などをより周知してきたこともあり、数年ぶりに高校生においてもA評価とB評価の合計が80%を超え、すべての対象者区分において良好な結果が揃いました。学園の教育活動をより広く理解いただくと同時に、生徒たちが自分たちの頑張りを伝える喜びにも与ることができるよう、2024年度での取り組みを参照しながら更なる改善に努めます。 そして安全面については、前年度には及第点に至らなかった教員と高校生において、評価結果の改善が見られました。通学路・敷地内ともに定期点検の拡充的な実施や修繕・更新など各種対策のさらなる強化を図っていますが、そうした取り組みが理解されてきています。これからも生徒たちが安心して成長していくことのできるキャンパスとして、防犯面での更なる強化にも努め、校地全体の安全確保を確実かつ迅速に進めていきます。
	(2) 外部環境への対応	イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。	イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上	
	(3) 情報の共有化と発信力の促進	ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。 エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。	ウ. 「災害や不審者から生徒の身を守ることができるよう配慮している」についての評価が、中学生・中学保護者・高校保護者において、80%以上。 エ. 「家庭への連絡は適切に行われている」についての評価が、全評価枠において80%以上	
		オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。	オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」についての評価が、どの評価者枠においても80%以上。	